2021年度の取組状況

総合的な3つの視点による取組

1 人・地域社会

環境にやさしいライフスタイルの実践や地域の環境活動を支援

愛護会などの環境活動団体による環境保全活動への支援や、スポーツチーム等と連携した親しみやすい広報による普及啓発などを進めました。

また、地域で様々な環境活動を積極的に実践する市民、企業、児童・生徒・学生を表彰する横浜環境活動賞を2021年度は13団体が受賞しました。

横浜環境活動賞受賞団体
(ヨコハマ海洋市民大学)の活動の様子

様々な団体が活動しています(2021年度末時点)

公園愛護会	2,512 団体
水辺愛護会	96 団体
市民の森愛護会	33 団体
ふれあいの樹林愛護会	12 団体
森づくり活動団体	35 団体
よこはま緑の推進団体	754 団体
ハマロード・サポーター	563 団体

2 経済

環境分野の取組による市内経済の活性化と地域の賑わいづくりを推進

大都市でありながら水・緑に恵まれた自然環境、歴史的景観や動物園などの地域資源を生かしたシティプロモーションを展開し、街の活性化につなげています。

横浜市SDGs認証制度を通じた環境ビジネスの後押しを行ったほか、上下水道や廃棄物に関する技術協力で、新興国の都市課題解決や市内企業の海外ビジネス展開を支援しました。

港の景観を活かした光と音楽の演出
「ヨルノヨ」

下水道事業の海外ビジネスに関する
オンラインセミナー

3 まちづくり

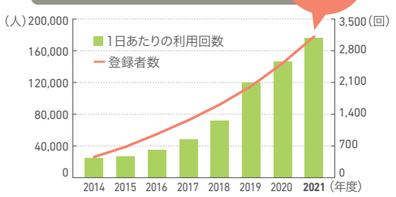
環境と調和・共生した、環境にやさしく災害に強いまちづくりを推進

鉄道・道路などの交通ネットワークや自転車利用環境の整備等の環境にやさしい交通・物流環境の形成や、計画的な雨水幹線等の整備に加え、自然環境が持つ機能を活用するグリーンインフラの考え方を導入した取組を進めました。

また、2027年の国際園芸博覧会の開催に向けて、広報PR・機運醸成を図るなど、国等と連携して取組を進めました。

コミュニティサイクル
登録者数と
1日当たりの利用回数

登録者数
約178,000人



2027年国際園芸博覧会 会場イメージ

数字で見る 横浜の環境

大きく社会情勢が変化する中、「横浜の環境」はどう変化し、
今、どんな状態にあるのか。数字から読み解きます。

市民ニーズに合わせて開設した農園の面積
※2013-2021年で
+36ha
「農」に親しむ環境が整い、農への関わりが広がっています。

環境教育出前講座を受けた人数
※10年間延べ人数
82,408人
多くの人が環境について学んでいます！

エネルギー消費量(2020年度)
※2013年度比
-20%
一人一人の行動が横浜市の脱炭素化につながっています！

年間のごみと資源の総量
※2009年度比
-7.6%
人口は増加していますが、ごみは減っています！

緑地保全制度で指定された樹林地の面積
※2008-2021年
1,013ha
まとまりのある樹林地を次世代に引き継ぐ取組が進んでいます。

生物指標による水質評価「きれい」の達成率
94%
水環境が着実にきれいに。

生物多様性の認知度
※2018-2022 5年平均
68%
生物多様性の認知度は60%超を推移しています。

環境管理計画や年次報告書の詳しい情報はウェブページで！

環境管理計画や環境管理計画年次報告書の冊子は、市庁舎市民情報センター、各区役所広報相談係、各市立図書館でもご覧いただけます。

横浜市環境管理計画

横浜市環境創造局政策課
〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10
TEL 045-671-4102

2022年12月発行

横浜の環境 2022

横浜市環境管理計画年次報告書
(概要版)

横浜市環境管理計画は環境分野の総合計画です。
この計画では「人・地域社会」「経済」「まちづくり」の
総合的な3つの視点を持ち、
地球温暖化対策や生物多様性、水とみどりなど
様々な環境の取組を進めています。

横浜市環境創造局政策課

2021年度の取組状況

未来の環境をつくる取組

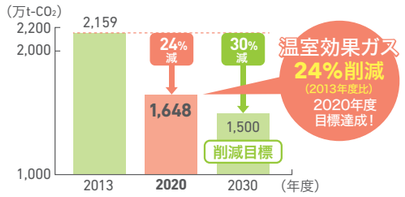
地球温暖化対策 重点施策

化石燃料に過度に依存しないライフスタイルへの転換

2050年までの温室効果ガス実質排出ゼロ（脱炭素化）の実現に向けて、水素で走る燃料電池自動車（FCV）の導入補助や、港の脱炭素化、13市町村との再生可能エネルギー連携、蓄電池を活用したVPP（仮想発電所）の構築など様々な取組を進めました。

2020年度の市域の温室効果ガスの排出量は1,648万t-CO_2と2013年度と比較して24%減少し、「横浜市地球温暖化対策実行計画」（2018年改訂）で掲げた2020年度削減目標を達成しました。

市域の温室効果ガス排出量



横浜港を拠点とするLNGバンカリング船
（提供：エコバンカーシッピング株式会社）

FCV普及啓発イベント（横浜市庁舎）

市域に電力供給を開始したハマウィング

生物多様性 重点施策

身近に自然や生き物を感じ、楽しむことができる豊かな暮らし

生き物の生息・生育環境を守り、生物多様性の向上に寄与するために、樹林地や農地の保全・再生の取組を進めました。また、SNSを活用した情報発信や動画配信、学習会などを通じて生物多様性の理解を深めるきっかけづくりを実施しました。

戸塚区東俣野町の水田 ▶

中希望が丘特別緑地保全地区（旭区）

ZOO to Wildセミナー（金沢動物園）

横浜 GO GREEN
ツイート数
743件

市公式アカウント
「横浜 GO GREEN」
での発信

水とみどり

自然の恵みを享受できる環境の保全・再生・創造

土地所有者の負担を軽減する緑地保全制度などによるまとまりのある樹林地の保全や、市民と連携した樹林地の維持管理・活用を推進しました。また、市民協働による川づくりのほか、グリーンインフラ（自然環境が持つ多様な機能）を活用した取組などによる水循環の再生を進めました。

名瀬・上矢部市民の森（戸塚区）

梅田川遊水地での生き物観察会の様子

都市農業

活力ある都市農業を未来へ

都市農業の担い手の育成や、賃借による農地の利用促進など持続できる都市農業を目指した取組を進めました。

また、多様な市民ニーズに合わせた農園の開設や、横浜の農を学び楽しむ市民・企業等と連携した地産地消などの取組を進めました。

市民ニーズに合わせて開設した農園の面積

恵みの里での農体験教室（緑区）

環境教育・学習

持続可能な社会の実現に向けて、自ら考え、具体的な行動を実践する人づくり

環境を学ぶ場や、環境に市民が関わる場が広がるよう、環境教育出前講座の実施、学校教育におけるSDGs達成の担い手育成（ESD※）など、様々な主体との協働による取組を展開しました。

※Education for Sustainable Development

小学校のSDGs委員会が横浜市資源循環局と協働して取り組んだ「フードドライブ」の活動

体験も重視した環境教育を実施

Googleのアプリケーションを活用した
環境教育

公園愛護会との協働による
山下公園の球根ミックス花壇

資源循環

循環型社会の構築

3Rを推進するため、食品ロスやプラスチックごみの削減の普及啓発などを進めました。2021年度のごみと資源の総量は117.8万tと、2009年度と比較して7.6%減少しました。

使い切りレシピを紹介する
調理実演イベント（港南区）

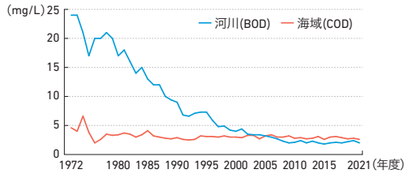
ごみと資源の総量と温室効果ガス排出量

	2009年		2021年
ごみと資源の総量	127.5万t	Down	117.8万t
ごみ処理に伴う温室効果ガス排出量	28.2万t	Down	22.7万t

生活環境

安全で安心・快適な生活環境の保全

環境法令に基づく事業者への規制指導や下水道の高度処理化など、環境負荷の低減に取り組みました。市内の大気や河川・海域の水質などの環境の状況は長期的に見て改善傾向となっています。

きれいな大気環境の様子

河川（BOD）・海域（COD）の水質経年変化